

大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進（53）



～ 1人1台端末を活用しよう② ～

石垣市教育委員会 学校教育課指導主事 伊波勇史

「問題を配布したのでやってください」と先生が指示を出すと、子ども達は、タブレット端末を開き、その問題を確認し一生懸命解答しはじめます。どの子も夢中になって取り組んでいます。済んだ子は、同じくタブレット端末で、解答を先生に送信します。大人顔負けの速さでキーボード入力しながらタブレット端末を活用しています。これは、最近見た6年生のあるクラスの授業風景です。

また、3年生のクラスでは、デジタルドリルを使って漢字の学習をしています。書き順がアニメーションで確認でき、タブレット端末に何度もなぞり書きができます。こちらもタブレット端末に向かい集中して取り組んでいました。

GIGAスクール構想を受け、小中学生に1人1台のタブレット端末が配備されました。本市では、6月に「お試し持ち帰り」を実施しましたので、保護者のみなさんは、一度目にしたことがあると思います。

「子どもの方が慣れるのは早い」「タブレットを活用することで意欲的に学習している」など、保護者の方からも前向きな声が届いています。

また、タブレット端末の活用は、授業だけではありません。電話連絡でしていた欠席届けもスマートフォンからできたり、学校からのお便りもメールで通知したりする学校も増えてきています。このように、ICTの利活用という視点で考えると、学校は大きく様変わりしてきています。

一方、タブレット端末の活用が進む中で、不安の声も届くようになりました。「家で動画ばかりみて困っている」「チャットでいじめが起こらないか心配だ」等です。これらの心配は、保護者なら誰もがすることだと思います。

しかし、タブレット端末は、未来を切り拓く子ども達にとって必需品となっています。私たち大人も、日頃からスマートフォンを利用しています。知らない言葉を検索したり、ニュースを読んだりします。天気予報のサイトにアクセスすると、雲の動きがリアルタイムに分かり、何分後に雨が止むのかもほぼ分かります。旅行の際は、行先の検索や地図での場所確認をしたり、宿泊先や飛行機を予約したりしています。外食するときは、評判のいい店を探したり、買い物もオンラインで購入したりしています。これらは10年前には全く想像もつかない生活習慣でしたが、これだけ情報化社会が拡大しているのです。

その上、全国の中学生のスマートフォン所持率は、すでに50%を超え、子どもたちもスマートフォン等のデジタル機器を日常的に活用するようになっています。つまり、子どもたちは1人1台端末貸与の以前に、デジタル機器を活用したインターネットの世界でコミュニケーションをとり、ゲームをして遊んだりしています。

これらのことを考えると、情報化社会への大きな不安はありますが、今教育は何をなすべきでしょうか。情報化社会の危険性もしっかり学びながら、自分を磨き、社会を発展させる手段としてタブレット端末を有効に活用する力をつけていかなければなりません。

では、本市の1人1台のタブレット端末の環境はどうでしょう。これは、学習を目的として石垣市が貸与した端末であり、学習以外の目的で使用してはいけないことになっています。子ども達にふさわしく

ないサイトには制限をかけてあります。しかし、全てに制限をかけることはできません。また、チャット機能については、正しいSNS利用者として育成することを目的にあえて制限はかけていません。トラブルや炎上は、少なからず起きることを想定しています。しかし、石垣市1人1台タブレット端末は、市内の小・中学生の決められたコミュニティーのみでつながり、教師や保護者が介入することができる、いわば安全に失敗できる場所として環境を構築しています。すべてが安全だと言えませんが、活用しなければ活用のよさや方法は身につきませんし、トラブルも必要な学びと考えています。

保護者の皆様にご理解していただきたいことは、必ず来る超デジタル社会で生きる子ども達に、情報活用能力とともに、これから出会うだろうトラブルや問題を解決する力を育成しておくことが必要だということです。

だからこそ、子ども達が社会参画していく年齢になる前に、学校・家庭・行政が連携して、タブレット端末の活用について真剣に向き合っていかなければならないのです。GIGAスクール構想は、すでにスタートしています。子どもたちのタブレット端末を肯定的に捉え、正しく利用できるよう見守っていきましょう。石垣市教育委員会では、トラブルが起きないよう未然に防ぐ声かけやルールづくり、情報モラル教育の充実を図っていきます。※記載のQRコードからタブレット端末持ち帰りルールが確認できますのでご家庭でも実践していただきますようお願いします。

